



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 148

2022

2.7

## 「令和3年度の学びの改革フォーラムながの」 ～令和の日本型学校教育実践セミナー～（後編）



前号では1月28日（金）に開催された「学びの改革フォーラムながの～令和の日本型学校教育実践セミナー～」（独立行政法人教職員支援機構・長野県教育委員会共催）の中から、工藤勇一先生のお話に焦点をあて、工藤勇一語録として紹介させていただきました。今号では、軽井沢風越学園の校長先生である岩瀬直樹先生が「授業づくりから学びの改革を考える」をテーマに話されたことから、「前提を問い直す」というキーワードに焦点を当てながら岩瀬先生のお話をご紹介できたらと思っています。お話の切り口としてまず出されたのが「前提を問い直すむずかしさ」というワードでした。その背景として次の3つを上げられています。

### 「前提を問い直すむずかしさ」

→13000時間の「被教育体験」のもとで、学校はかくあるものと身体化されてしまっている？

→無意識の「信念」や「価値観」で自動的に行動してしまう。

→体験したことのない学び方を教えなければならない。＝実感知を伴わない

私たちは幼稚園・保育園に入園してから高校卒業（3・6・3・3）の15年間、教育を受ける立場での体験の中で、体に「学校はかくあるもの」という暗黙のイメージができあがり、無意識のうちにそこからしみだしてくる「信念」や「価値観」にとらわれてしまっているのだと妙に納得してしまいました。それは教員だけでなく13000時間の「被教育体験」がある大人全体に共有されているものなのだと思います。だから「前提を問い直す」ためには工藤先生が言われている「当事者意識と対話」が必要になってくるのだと思います。

また、子どもたちが未来を生きるために必要な資質・能力を身に付けていくための学びについては、そうした学びを経験したことがない私たちにとっては踏み込みにくいものであり、どう踏み込んでいいのか躊躇しているのが現状なのかなと思います。

また、岩瀬先生は「大人の学び」の70%は“仕事からの経験”、20%が“他者の観察やアドバイス”、そして10%が“研修や本”であると言われています。そして、経験から学ぶ質を高めるには“振り返り”として、我々“対人援助職”として成長するためには、“経験から何を学ぶか”が振り返りのポイントだと言われています。

そして振り返り（リフレクション）を次のように言われています

“自分の行動の前提を問い直し、変化し、成長していくこと”とし、  
○自分自身がどのように考え、どのようなことを願い、その行為を行ったのか、それは子どもの視点からみると本当にそれでよかったのかを確認するプロセス。  
○「前提を問い直す」練習。この繰り返しで私たちは専門性を伸ばしていく。  
とされています

そして面白いのがその“振り返りにはクセがある”ということを言われています。

その振り返りのクセとして、

- 専門性が高まると、視野が狭くなる可能性がある
- 無意識の「信念」や「価値観」で自動的に行動してしまう

と指摘されています。

そこで、工藤先生の「当事者意識と対話」の意味の重みを感じます。これからの学びを創っていく当事者意識を持ち、校内で、そして保護者や地域の方と対話をおこなう中で、多様な考えの中でもまれながら目指す方向性を共有し、協働するなかで“子どもをみんな育てる”といったつながりが出来上がっていくのだろうと考えさせてもらったフォーラムでした。

工藤勇一先生の今回のフォーラムの話とよく似た話を「茅ヶ崎青年会議所5月第一例会



学校教育シンポジウム 学校未来予想図～子供たちの教育はこう変わる～」の中でされています。よかったら20分程度の話なので視聴してみてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=IGzOyCL6oVE> (26分～49分あたり)

## 「おはなしを届けに」～野村昭子さんの思い出～



野村昭子さんと言われてもご存じでない方も多いと思います。

野村さんは市内の図書館・保育所・幼稚園・小学校だけでなく、市外の図書館、そして日本ライトハウス等で読み聞かせ活動を積極的に行われていた方です。私が松が丘小学校の校長時代に6年生の保護者から、6年生が修学旅行に行く前に、野村さんのストーリーテリングを是非聞かせてほしいという働きかけがありました。修学旅行に向け平和学習を進めていた6年担任に声をかけてみると「お願いします」との即答で、野村さんに連絡

をと和学習を深めてくれたのはもちろんですが、その後の低学年対象の月1回のストーリーテリングや、大人対象のお話会と無理な願いを快く聞いていただきました。2020年1月末、松が丘小の当時の西原校長先生から「2020年1月29日に夕方不慮の事故で亡くなられた」と野村さんの訃報が突然届きました。

葬儀の中でご主人の俊三さんが昭子さんの足跡を語られるのを聞き、涙が止まりませんでした。そんな野村さんの「読み聞かせ」にかけた情熱がこの本にはいっぱい詰まっています。市内の小学校には先日お届けさせていただきました。「読み聞かせ」に情熱を傾けられた野村昭子さんを多くの方の記憶の中にとどめていただけたらと思います。そして、野村さんのように子どもたちに本の楽しさを伝えてくれるボランティアさん、これからもよろしくお願いします。

もし、どこかでこの本を見かけられましたら手に取っていただけたらと思います。

(文責：北本)